

RISM (リスム)とRILM (リルム)

～音楽学・音楽史研究に不可欠な情報ツール～

市川 啓子

略語の世界は…

とかく難しいもの。突然「貴女KYね」と言われても、チンプンカンプンな私です。さて、図書館の中にも略語が満ちています。楽譜やCDを借りるのに絶対必要なOPACだけは、もう覚えていただけたでしょうか？我々図書館員ですら、**O**nline **P**ublic **A**ccess **C**atalog (オンライン蔵書目録) の略語であることを忘れてしています。今回ご紹介する略語「リスムとリルム」は、絵本の『ぐりとぐら』のように可愛い響きですが、実は、国際的規模の事業計画に基づく巨大な情報ツールの略称なのです。

音楽研究に不可欠な情報

例えば、中世・ルネサンスの音楽の響きに感動して、より深く研究してみたくなった時、また、音楽家や音楽作品、時代背景について詳細に知りたい時、音楽史上の疑問点を解明したい時などには、次のような情報が必要です。

- ① 自筆譜、手稿譜、初版楽譜、当時の音楽理論書等、音楽史の**第一次史料** (源泉資料) と呼ばれる資料がどこに存在するのかという**所在情報**
- ② そのテーマについて書かれた**先行研究** (音楽学の学術文献) があるか、どういう形で出版されているかという**書誌的情報**

この2種類の情報のうち、①に答えるものがRISM (リスム)、②に答えるものがRILM (リ

ルム) です。図書館OPACやインターネットからはなかなか得られない情報です。

RISM (リスム)とは

Répertoire **I**nternational des **S**ources **M**usicalesというフランス語の表記から採られた略称で、『ニューグローヴ世界音楽大事典』^(注1)では、「**国際音楽資料総目録**」と訳されています。詳しくは、そちらをご覧くださいのですが、上記①の情報を提供するために、世界の音楽学者：国際音楽学会(IMS)と音楽図書館員：国際音楽資料情報協会(IAML)が、1952年から共同で取り組んでいる国際的な事業です。国際的レベルで事業を推進していくには、研究、作業、組織運営、財政等様々な問題が生じますが、すべて共同委員会により管理されています。この委員会には、各国の資料を収集して提出する26の国内委員会が協力しており、当館も資料提供を行っています。

この大胆にして遠大な長期計画の事業は、シリーズA, B, Cに分かれて、現在、37巻 (54冊) もの目録が刊行されています。^(注2) 大まかには、Aは、楽譜が個々の作曲家名のアルファベット順に整理されている目録、Bは、楽譜や理論書が年代順、国別等主題にふさわしい体系で構成されている目録、Cは、A, Bに掲載されている図書館がどこにあるかという図書館の住所録です。当館では、シリーズAとBの目録は、参考図書室のX-035【国際的所在目録】、

Cの目録はX-030【住所録】の棚にあります。

ここで、特にご紹介したいのは、シリーズAです。**A-I**: “Einzeldrucke vor 1800” は、1500年から1800年の間に1人の作曲家の名の下に出版された西洋音楽の**印刷譜**の所在目録で、全9巻から成り、約8000人の作曲家による約27万点の作品が収録されています。活躍した時期が1800年以前の作曲家であれば、1800年以降の作品も含まれますが、収録範囲にハイドンは含まれ、ベートーヴェンは含まれませんので、ご注意ください。**A-II**: “Handschriften vor 1800” は、1800年以前の**手写資料(自筆譜、手稿譜)**の所在目録を目指して、準備作業が続けられていましたが、ついに、オンライン・データベース化が実現しました。その際、“Music Manuscripts **after 1600**”として、1600年以降の自筆譜、手写譜が含まれることとなりましたので、ベートーヴェンの自筆譜も探せます。世界31の国、750以上の図書館又はアーカイブが所蔵する、2万人以上の作曲家による564,000件以上の楽譜の情報が収録されています。

RILM (リルム)とは

音楽関係の**学術的文献**を網羅した、国際的な規模の目録作成事業で、**R**épertoire **I**nternational des **L**ittérature **M**usicalesというフランス語の表記から採られた略称です。RILMは、音楽学文献の急増を直視し、新しい技術と国際協力を用いてそれを乗り越えようとする音楽学者と音楽図書館員たちの試みで、1966年にニューヨークに本部をもって設立されました。RISMと同様、各国の音楽学会や図書館協会の公的援助に加え、多くの団体からの財政的支援を受けています。

注1：『ニューグローヴ世界音楽大事典』第6巻 p.465 ●X-001/NG/6

注2：『塔』23号に各巻の詳しい解説がなされていますので、そちらをご覧ください。『塔』（国立音楽大学図書館報）第23号（1983年）p.85-110 ●P696/23

RILMで扱う音楽文献は、音楽のあらゆる様相に関する著作、音楽関連事項、雑誌記事、全集、個々の論文の他、多種多様で重要な学術的価値のある文献が含まれており、世界43ヶ国のRILM国内委員会によって、データの収集、選択、翻訳、編集、索引付けが行われています。日本国内委員会も、国際センター設立の翌年に組織され、現在では、5つの団体（日本音楽学会、東洋音楽学会、日本音楽教育学会、音楽図書館協議会、国際音楽資料協会）から選出された15人の委員および事務局長によって、活動が続けられており、日本語文献の目録『音楽文献目録』も年1回の割合で刊行しています。

“RILM Abstracts” (**国際音楽文献要旨目録**) は、最初は季刊、1984年以降は年刊で刊行される雑誌の形を取っていました。こちらも、現在では、すっかりオンライン・データベース化され、世界151ヶ国で1967年以降に出版された音楽文献をパソコンから検索することが可能となりました。ただし、日本語の音楽文献だけは、X-040【文献目録】の棚にある『音楽文献目録』を1年ごとに繰って探してください。

当館でデータベースを探すには

RISMとRILM Abstractsは、ともに、EBSCO hostというプロバイダーから提供されていますので、参考図書室の情報端末のメニューから「海外のデータベース」⇒「EBSCOhost」の順序で開けてみてください。検索画面は、両方とも簡単な仕組みになっていますので、ボックスに探したい作曲家名やキーワードを入れます。ちなみに、RISMの検索ボックスに「kunitachi」と入れると、368点もヒットし、当館で所蔵しているBellini, Rossini等の自筆譜の情報がわかります。検索してみてください。